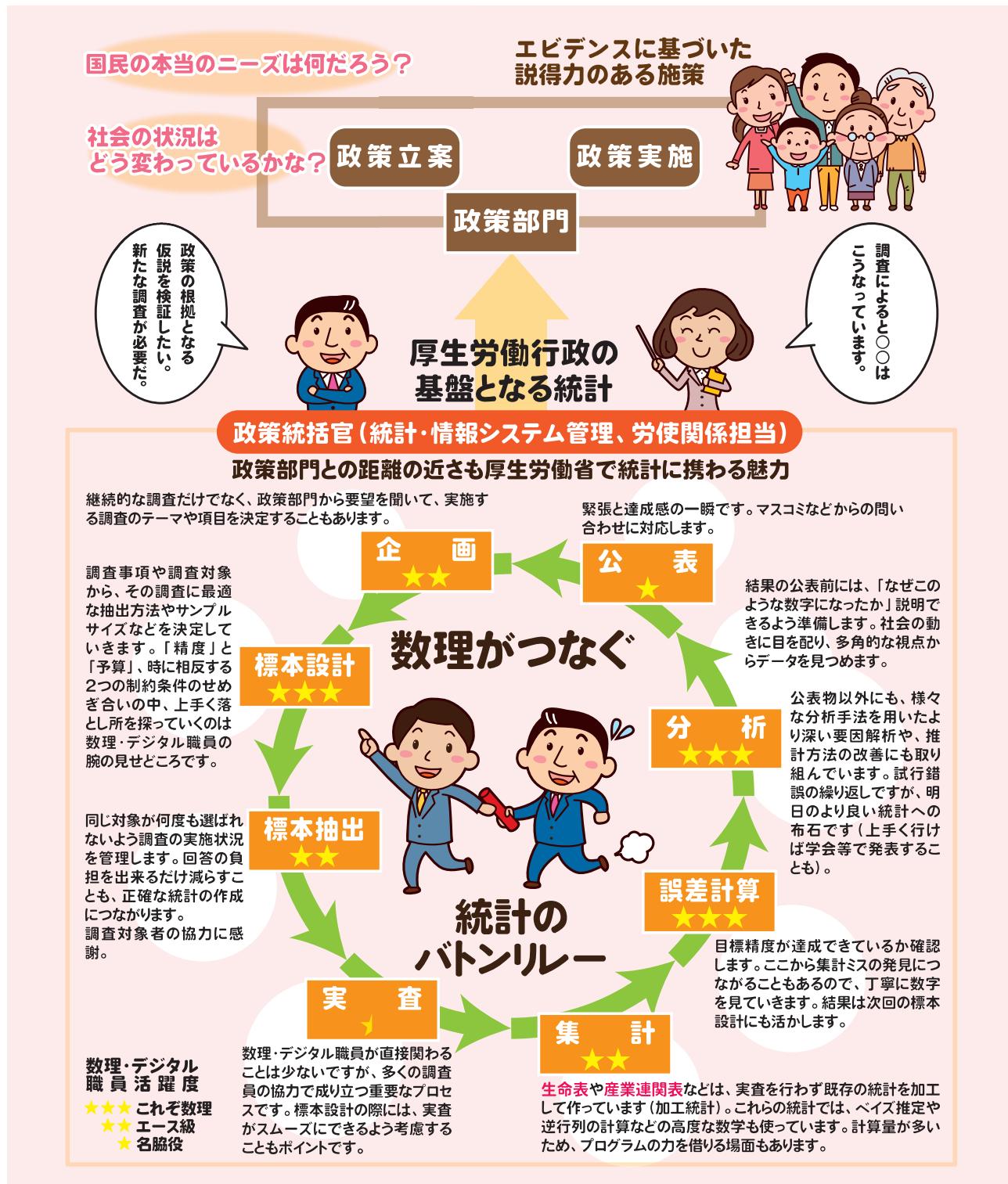


10. 政策統括官(統計・情報システム管理、労使関係担当)

厚生労働省が行う社会保障や労働分野の政策は、国民の生活を直接左右し、国の財政・経済にも大きな影響を及ぼすものです。このような政策は、明確な「エビデンス(科学的根拠)」によって決定されることが不可欠です。

政策統括官(統計・情報システム管理、労使関係担当)は、厚生労働行政におけるEBPM(Evidence-Based Policy Making; 証拠に基づく政策立案)の要となる統計等を展開しています。その中で、数理・デジタル職員は、統計理論に基づいた標本設計や精度計算、重要な基幹統計や加工統計の作成などに携わっています。



TOPIC

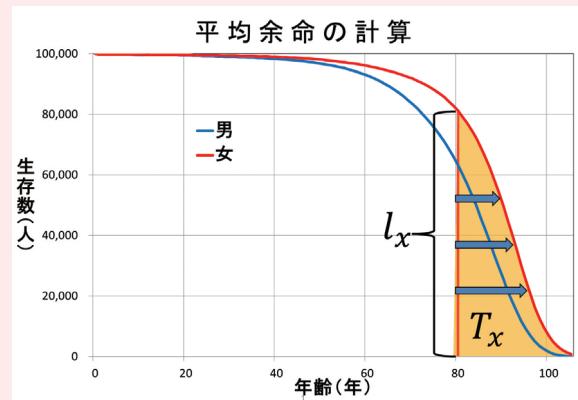
平均寿命とは？

生命表は、ある期間における死亡状況が今後変化しないと仮定したときに、各年齢の者が1年以内に死亡する確率や、平均してあと何年生きられるかという期待値などを、死亡率や平均余命などの指標によって表したものです。

各年齢の人があと何年生きられるかの平均をその年齢の平均余命と呼び、特に0歳の平均余命を平均寿命と呼びます。

平均寿命は各年齢別の死亡数を人口で割った値（死亡率）を用いて算出するので、年齢構成の影響を受けない指標となっており、地域別や年次別といった年齢構成の異なる集団間の死亡状況を比較する際にも欠くことのできないものとなっています。

平均寿命の計算では、プログラミングを行うことに加え、ペイズ推定などの高度な数学を使用する場面があります。



$$\overset{\circ}{e}_x \text{ (平均余命)} = \frac{x \text{ 歳生存者の残り生存年数の和}}{x \text{ 歳の生存数}} = \frac{T_x}{l_x} = \frac{\int_x^{\infty} l_t dt}{l_x} \quad (\overset{\circ}{e}_0 = \text{平均寿命})$$

都道府県別の平均寿命（令和2年、女性）

平均寿命（女）
 88.0歳以上
 87.5歳以上
 87.0歳以上
 87.0歳未満



都道府県間の違いは
どこから生じている
のでしょうか・・・？

最近の動向は？

各都道府県の平均寿命は、都道府県別生命表の作成が始まった昭和40年以降、ほとんどの県で常に伸び続けています。

最新の令和2年では、上位1位は男性が滋賀県（82.73年）、女性が岡山県（88.29年）、上位2位は男性が長野県（82.68年）、女性が滋賀県（88.26年）となっています。一方、下位1位は男女とも青森県（男性79.27年、女性86.33年）、下位2位は男性が秋田県（80.48年）、女性が福島県（86.81年）となっています。全体的に女性の方が男性より長く、都道府県間の差は男性の方が大きい傾向にあります。

TOPIC

実質賃金って？

毎月勤労統計調査は、全国約33,000の事業所を対象に、毎月、賃金、労働時間及び雇用の状況を調べる調査です。

実質賃金は、実額の賃金を物価で除して算出したものです。実質賃金の伸びは、一般労働者の賃金の寄与、パートタイム労働者の賃金の寄与、パートタイム労働者比率の寄与、消費者物価の寄与に分解することができます。賃金がどういう要因で増減しているかを分析する際にも数学的な知識が役に立ちます。

実質賃金（現金給与総額）の前年度比の要因分解

